

平成 30 年度 第 2 回 モビリティ・イノベーション連絡会議 議事概要

1 日時：平成 30 年 12 月 14 日（金）13:00～14:00

2 場所：同志社大学 室町キャンパス 寒梅館 6 階 大会議室

3 出席者

構成員 金沢大学 菅沼准教授（Skype）、群馬大学 小木津准教授、慶應義塾大学 植原准教授（Skype）、重野教授（Skype）筑波大学 川本教授、東北大学 鈴木教授、同志社大学 三好教授、同志社大学 佐藤教授、名古屋大学 倉地特任准教授（Skype）、森川教授、日本大学 栗谷川准教授、法政大学 糸久准教授、横浜市立大学 中村教授（Skype）、一般財団法人日本自動車研究所 鷹取安全研究部副部長

東京大学生産技術研究所次世代モビリティ研究センター／東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田教授、大口教授、坂井准教授、小野特任准教授、平沢助教、和田助教、貝塚助教

オブザーバー 古賀氏、杉江氏、新エネルギー・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 渡辺氏

事務局 一般財団法人計量計画研究所（馬場氏、関本氏、伊藤氏）、社会システム株式会社（坂下氏、東野支援 氏、野田氏）

4 議事概要

（1）前回議事概要の確認

- ・資料 1 について説明。
- ・議事概要は承認された。

（2）日独連携に係る情報提供

- ・内閣府資料、資料 2 について説明。

（3）日欧連携に係る情報提供

- ・資料 3-1,3-2,3-3 について説明。

（4）情報提供内容のとりまとめ

- ・資料 4-1,4-2-1,4-2-2 について説明。（資料 4-3,4-4 回覧）

（5）関連分野・業態、より上流部の研究開発分野について

- ・資料 5 について説明。

（主な議事）

- ・分野の追加の提案：健康福祉、エネルギー
- ・業態の追加の提案：建設不動産、農林業
- ・健康福祉についてはドライビングシミュレーターを用いた認知症の高齢者の運転の計測などを始めているところ。低血糖状態に陥るところについての安全化についての民間研究が行われている。

（6）今後のスケジュール

- ・資料 6 について説明。次回は 2 月 8 日（御茶ノ水）。TRB での情報収集内容等を踏まえて開催。

(7) その他

《情報提供 1》

- ・須田構成員より、ドイツの ASAM (Association for Standardisation of Automation and Measuring Systems) について情報提供

《情報提供 2》

- ・倉地構成員より、道路交通におけるサイバーセキュリティ確保のための勉強会について情報提供

《提案》 鈴木構成員より、「モビリティ・イノベーション社会実装・産業創成国際拠点の構築」について

- ・福島県の復興知事事業の公募において、上記のような提案を検討している。提案にあたっては、他の先生方にも協力いただければありがたい。研究自体は別々でもファシリティー等を共有化することでコストダウン、コストの効率化を図ればと考えている。

《議事提案》 坂井構成員より、大学組織の連携のあり方について

(主な議事)

- ・大学の組織が連携を図っていくこと自体がどういう意味を持つのかという議論ができればと思っている。将来的に考えたときに学学連携自体は何を意味するのだろうかという問題意識から。
- ・大学の枠を超えて連携するという学産学連携のような形になると、少しリアリティーが出てくる。
- ・分野が違つと言葉の定義や、考え方・ベースが違つ。どれぐらい考え方を共有していけるのか、連携していく中で率直な意見交換が必要。
- ・具体化するところの役割を誰かに持たせることが学学連携には必要。
- ・社会学の観点から、社会実験というある種の方法論に則つて皆が連携できると、難しいかもしれないが面白い。行動経済学の経済実験との連携のも面白い。
- ・産産学学連携という形にしていくべき。

以上